

中古農機流通の実態とその問題点

小田原 和弘・岡島 正昭*・高橋 修

(岩手県立農業試験場・*岩手県立農業短期大学校)

The Circulation of Used Agricultural Machines and Its Problems
Kazuhiro ODAWARA, Masaaki OKAJIMA* and Osamu TAKAHASHI

(Iwate-ken Agricultural Experiment Station ·
*Iwate Prefectural College of Agriculture)

1 はじめに

現在、農業機械は新品農業機械の販売に伴う中古農業機械が多くなってきており、低コストの面からこの中古農業機械の有効な利用が大きな問題となってきた。しかし、中古農業機械は市場の歴史が浅く、自動車のような中古市場は形成されておらず中古農業機械の流通が円滑に行われていない状況にある。

岩手県では、全国にさきがけて昭和50年より中古農業機械の市場の形成に取り組んできていることと、最近の冷害による収入減や米価の抑制等により中古農業機械の導入に農家に関心を持ってきたことが加わり、中古農業機械市場が形成されつつある。そこで、中古農業機械市場を今後更に安定させるために、現在の中古農業機械流通の実態を調査した結果、いろいろな知見を得たので報告する。

2 調査方法

調査方法は、岩手県内の中古農業機械を取り扱っている農協や販売店(133店)を対象にアンケート調査を行った。実際に回収できたのは、89の販売店で66.9%の回収率であった。調査項目は、販売店が昭和59年1月～12月までの1年間に農家へ販売した中古農業機械の販売台数、及び中古の乗用型トラクタの銘柄・形式・仕様・年式・本機状態・販売価格・加修部品原価・工賃などである。

3 調査結果

(1)流通状況

農家が購入した農業機械台数のうち中古農業機械の占める割合は、乗用型トラクタ45%、歩行型トラクタ40%、田植機36%、コンバイン37%とかなり大きな割合を占めている(図1)。

中古農業機械が販売店にどのような形で在庫したかを見ると(図2)、乗用型トラクタでは、新品機械に伴う下取りが最も多く約6割を占め、次いで前年の在庫となっている。また、少しではあるが他の販売店からの入庫がみられた。他の機種についてもほぼ同様の傾向がみられた。

中古農業機械の出庫状況について見ると(図3)、乗用型トラクタ・歩行型トラクタでは中古機の販売は約7割で、残り3割が在庫となっており、スクラップ処理台数はごく

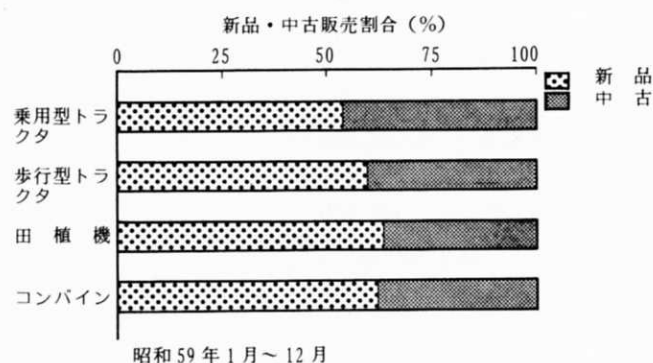


図1 新品・中古販売割合

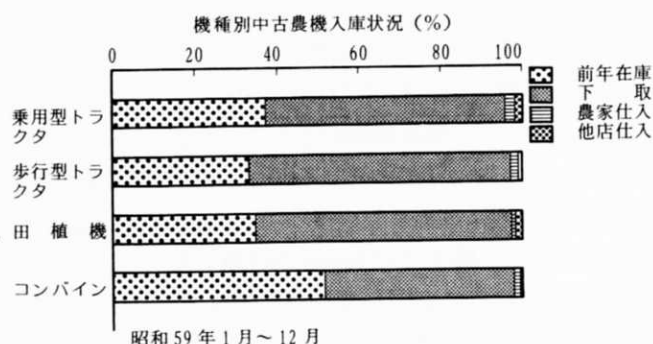


図2 機種別中古農機在庫状況

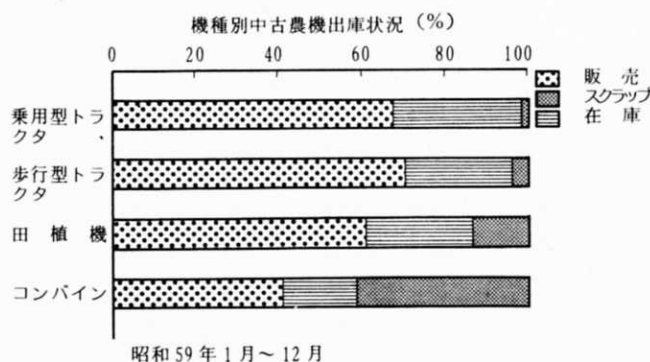


図3 機種別中古農機出庫状況

わずかである。一方、田植機・コンバインでは中古機販売台数がそれぞれ6割・4割で、在庫台数が2.5割・2割で

スクラップ台数が1割・4割と大きくなっているのが特徴である。また、59年末の中古農業機械の在庫台数を59年当初と対比してみると59年当初よりいずれの機種でも少なくなっており、販売店の在庫の悩みが年々解消されている傾向がみられる。

(2) 経過年数別本機状態別販売台数割合 (トラクタ)

経過年数別にみると最も多いのは6年で、続いて5年、8年、9年、7年となっており、5～9年で全体の71.2%を占めている。本機状態別にみると、A（整備済み又は未整備でも良好な状態のもの）が最も多く52%，B（未整備ではあるが使用に耐える状態のもの）が43%となっている。これを経過年数別にみると、7年まではAの占める割合が多いがそれ以降はBの占める割合が大きくなる。

表1 経過年数別本機状態別販売台数割合 (トラクタ) (%)

経過年数 本機状態	1-2	3-4	5-6	7-8	9-	不明	計
A	4.1	8.9	20.0	13.2	6.9	0.1	52.2
B	0.2	2.4	11.7	11.5	17.0	0.2	43.0
C			0.2	0.4	2.6	0.1	3.3
不明	0.1		0.1	0.4	0.2		0.5
計	4.4	11.3	32.0	25.5	26.4	0.4	100

注. A：整備済み又は未整備でも良好な状態のもの
B：未整備ではあるが使用に耐える状態のもの
C：整備を要するもの

(3) 再販価格割合 (トラクタ)

再販価格割合（再販価格 / 当初小売価格）は農家が使用した経過年数と深い関係が認められる（図4）。メーカー別にその傾向をみると、I社のものは使用経過年数の少ないものを高くしているが、年数ごとの下げる割合を他社より大きくしている。同じようにK社のものは、使用経過年数の少ないものはI社ほど高くはないが、年数ごとの下げる割合を少なくし使用経過年数の多いものはI社よりむしろ高くなっている。Y社のものは使用経過年数の少ないものは前の2社とくらべて最も低い割合におさえられ、また、

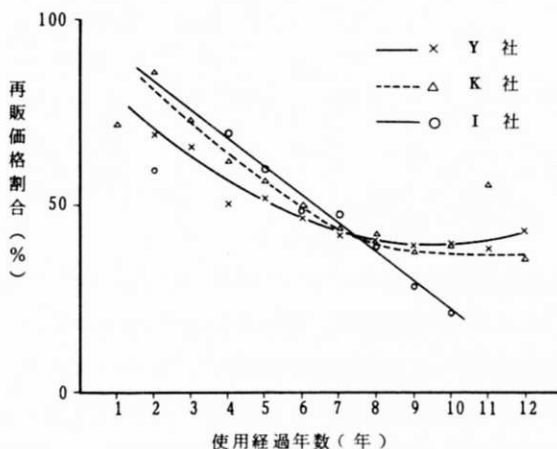


図4 再販価格割合 (トラクタ)

年数の多いものは他の2社より高くなっている。

(4) 下取価格割合 (トラクタ)

下取価格割合（下取価格 / 当初小売価格）も農家の使用経過年数と関係があり、再販価格割合と同じ傾向がみられた。このようにメーカー別に傾向が異なるのは、販売店の販売姿勢によるものと思われる。

(5) 修理費別割合 (トラクタ)

トラクタを整備しないで市場に出しているのは全体の59%で、下取りをしたまま未整備の状態では市場に出ていることがうかがわれた（表2）。これをメーカー別にみると、Y社が修理に最も力を入れており、次にI社となっている。K社では修理をしないで市場に出している割合が最も高いことがうかがわれた。

表2 修理費別実施割合 (トラクタ) (%)

修理費 販売店	0	～2	～4	～6	～8	～10	10～
I 社	54.6	17.7	18.4	7.1	2.1		
K 社	76.8	2.0	5.5	4.6	5.0	3.6	2.5
Y 社	37.5	6.5	11.0	7.8	12.9	13.3	11.0
全体	59.1	5.5	9.2	8.0	6.6	6.4	5.2

注. 修理費 = 部品原価 + 工賃

(6) 流通経費割合 (トラクタ)

流通経費として見込んでいるのは、全体で1台当たり4～18万円であるが、これが下取価格に修理費を加えたものに対してどれだけの割合かを見ると、使用経過年数が1～3年までの中古機では5～15%であるが、4年以上は15～30%となっている。また、特別な例として流通経費がマイナスのものや、極端に高いものがあり不適正な下取価格や再販価格で取引されており中古市場形成に不利なものがある。

4 ま と め

(1) 農家の農業機械導入に占める中古農業機械の割合が高くなってきている（乗用型トラクタ45%，歩行型トラクタ40%，田植機36%，コンバイン37%）。

(2) 中古農業機械の流通が順調になるにつれて、安定的な市場が形成されるようになってきているが、まだ一部に無理な下取り等によって再販価格を不適正なものにしている例がみられる。

(3) 中古農業機械の大半は、農家の庭先に置かれているままの状態では未整備のまま市場に出回っている。また、前の使用条件等が不明なものが多い。

(4) 再販価格の主体となる下取価格は、農家の使用経過年数と深い関連があるが、機械の性能は加味されていないものが多い。

(5) 一部の販売店では、未整備のまま市場へ持ち出すのを少なくし、機械の性能に見合った価格で供給できるように配慮されていた。